



敬啓 某の御縁の産除本力  
 又の名ハ天眼子と申す者仔細  
 有して此上りて及見念中を  
 御の唐突の申出之礼の事も  
 共昨職仕立より津右の御友  
 人太事少く言ふ者と伺はる  
 且の接せんと致掛け申事  
 有るに迄は申及も申あぐ自  
 せ縁の者もあらずと所推  
 知有るにせりとも申す  
 上の子御縁の事  
 此はず別具の二冊を  
 申す度と申す拙著の  
 晩度一事の事  
 世に計りぬる  
 此批料を申す  
 申す  
 此はめと申す  
 通版の事  
 御縁の事



後にはめといたがぬりの文字  
五版の字もろろ 浮文より  
師差よりとつと振おれ共  
次第より御事 元来向好の  
仲向み強弱よておろち  
心よて出版せし出版当  
日せきくあり世より他人の加  
けりおろの今なる本屋の手  
掛けほらぬ刷り肝油の代り  
せせめくと痛仙舞田表作若  
の大徳よりみくろ多き里  
嶋嶋今悪口の日よけり大者  
を女様まきあふん底構水  
は樹おれと未の字七様を  
死せし先い右様子の要る  
のサカサキ 子あり 恒る

十九日 除本力

細書たて 卓也

あつた先生の男の 赤花丸へは飯後より由  
よつ年はは隠居の ちきをまんとせり 偽新子の  
若に書たつてあへてこい杯は立腹に 女用子け